

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書


- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 古前小 学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 15名、2学年14名、3学年13名 第4学年16名、5学年10名、6学年21名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ グローバルマナーとおもてなしの心を学び、自己を確立しつつ、他者を受容して臆せず積極的に海外からのお客様をお迎えしようとする心情を養う。
5 取組内容	(1) おもてなし講座 11月1日(金)、スターフライヤー(株)より瀧恵子様をはじめ、4名のスタッフの方が来校。元フライトアテンダントや空港グランドスタッフという立場から、グローバルマナーやおもてなしの心についてお話をいただいた。 ① 快適な学校生活のためには？ ② お友達と仲良くするには？ ③ 違いを認めよう！ というテーマで、子どもたちに事例を交えながら、あいさつ、言葉遣い、表情、身だしなみなどについてわかりやすく話していただいた。身近な生活の場面に即した事例が多く、子どもたちもすぐに実践できそうだった。 児童の感想は以下のとおりである。



	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶も、言葉かけも、相手の気持ちになってするとよいと思った。 ・ 思いを伝えるための言葉や表情が大切だとわかった。 ・ 目で合図することも大切だと思った。 ・ 障害をもった方や困った方への言葉かけや行動がわからないときは、思い切って聞いてみることも大切だと思った。 	
6 主な成果	○ 日常生活においても、目を見て挨拶したりお辞儀をしたりする児童が増えた。また、相手に対して優しく接したり、友達の気持ちをよく聞いてあげたりする思いやりのある行動が目立つようになった。	
7実践において工夫した点(事業の特色)	○ 全児童に体験させるために、講座の対象学年を、下学年と上学年の二つに分けた。児童の実態に合わせて講話をしていたので、より理解ができた。	
8主な課題等	○ 学んだことをいかにしてオリンピック・パラリンピックへの興味・関心へとつないでいくか。	
9来年度以降の実施予定	○ いよいよ、オリンピック・パラリンピック当年であるので、その意義や歴史、日本の伝統や郷土や世界の文化の理解など、関連した学びを広げていきたい。	